

壁一面マトリョーシカ



ロシア文化紹介の鮫島さん博物館(原)

原村丸山の森別荘地の鮫島礼雄さん(76)が自宅の一室に開設している、ロシアの民芸品マトリョーシカを集めた「マトリョーシカ博物館」の人氣が高まっている。旧ソ連時代を含め100組以上のマトリョーシカをまとまって見られる施設は「日本では唯一ではないか(鮫島さん)」といい、来館者が年々増えている。(保延悟)

マトリョーシカは上下に割れる胴体の中から一回り小さい人形が次々と出てくる入れ子構造の木製人形。展示室の壁一面に並ぶ人形は民族衣装を着た女性の全身像を描いた伝統的なものから個性的な絵柄まで多種多彩。ゴルパチヨフやエリツインらの指導者、ピートルズのメンバー、日本のサッカー選手、美術作品やアニメを描いた人形のほか、数々の人形もある。鮫島さんはロシアとの交流事業

↑
壁一面に多種多様なマトリョーシカが並んでいる

50年かけ100組収集、じわり人氣

に取り組み日本ユーラシア協会(本部・東京都)常任理事。東京の専門学校でロシア語を学び、文化や先端技術に引かれ、20代で日ソ協会(現日本ユーラシア協会)に入会した。長年、文化交流や留学生の派遣事業に携わり、旧ソ連やロシアを50回ほど訪問。人形は現地で購入したり、お土産にもらうなどして50年以上かけて収集した。人形のほかにロシアの陶器や信仰の対象であるイコン(聖像画)なども展示している。

原村には30年ほど前に別荘を構え、2007年に移住。近くで経営を始めたペンションでマトリョーシカ博物館を開き、ペンションをやめてからは自宅で展示を続けている。特に宣伝はしていないというが、今年は、過去最高の約120人が来館した昨年を上回るペースで見学者が訪れている。

鮫島さんは「ロシアの文化を紹介しているので多くの人に見てほしい。要望があれば解説もします」と話している。

11～3月は冬季休館。入館料大人200円、子ども100円。来館は予約が必要。問い合わせは鮫島さん(電話0266・74・2640)へ。